

阿蘇市農業委員の皆さんを紹介します

37人

問 農業委員会事務局

☎ 22・3254

任期満了に伴い7月6日に執行された農業委員一般選挙は、全ての選挙区で立候補者が定数を超えなかったため投票は実施されず、30名の立候補者が当選し、市議会推薦4名、農業団体推薦3名、合わせて37名の農業委員が決まりました。

また、7月22日に行われた農業委員会総会で、会長に古閑昭憲氏、会長職務代理者に寺川隆文氏が選任されました。会長に選任された古閑氏は、「担い手の不足、農業者の高齢化など厳しい農業情勢は続きますが、優良農地の確保や耕作放棄地の解消など、阿蘇市の農業の維持・発展を目指し尽力します」と、抱負を述べました。

	宮本 和明 下西河原・下東下原・ 西下原・片隅・ 荻の草・舞谷		寺川 隆文 東全区・町全区・分 全区
			職務代理者
	田端 秀吉 上東下原・上井手・ 下井手・原口		室 恒和 西全区・塩塚・古神 全区
	岩本 弘史 西井手・上西河原・ 下西河原・中原		山本 利幸 北区・町区・分区
	農業共済推薦		市議会推薦
	古閑 昭憲 狩尾全区		柚上 広昭 馬場・豆札・桜町・ 福原・下町
	会長		
	草尾 安幸 狩尾全区		石田 隆之 古閑・神石・福岡・ 東仲町・西仲町・上 町
	山内 市男 跡ヶ瀬・的石		市原 伸博 古城1区・3の1区・ 3の2区・4区
	白石 秀徳 永草・枳		井 春喜 古城2区・3の1区・ 3の2区・4区
	上野 政重 赤水・車帰		和田 敏喜 古城5の1区・5 の2区・6区・7区

※氏名下に記載の行政区は担当地区。(敬称略、行政区順)



当選証書授与式の様子

農業委員会は農地の利用集積や権利調整、耕作放棄地の抑制・解消支援、農業経営の合理化など、農地の効率的な利用促進に関する業務を処理します。

農地の売買や賃借、農地転用などについてのご相談がございましたら、各地区の農業委員にお尋ねください。

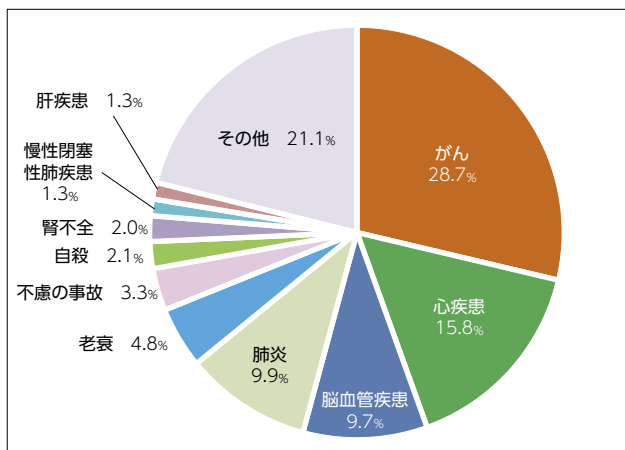


	猪島 敏治 黒流町・今町・小池 市議会推薦		宮本 和誠 元黒川・南黒川・上西黒川		永富 久義 狩尾全区 土地改良区推薦
	岩下 義國 坂の上・大道 農協推薦		児玉 正孝 元黒川・東黒川・坊中・北黒川		岩下 雄治 成川・折戸・宇土・浜川
	赤尾 信一 立塚・横堀・遊雀・中道		伊藤 次幸 乙姫・下西黒川・黒川千丁		木村 広典 内牧全区・小里
	丸山 今朝徳 小園・小地野・笹倉		佐藤 博 道尻・下役犬原・上役犬原		中島 正己 西湯浦・湯浦・南宮原・深葉・西小園
	菊池 金輝 坂の上・大道		宮崎 健幸 小倉・西小倉・小池		緒方 洋子 成川・折戸・宇土・浜川 市議会推薦
	佐藤 徳雄 山崎・仁田水・中江・滝水		北里 憲治 小野田町・新村・下の原・本村		西村 正一 西町・竹原・蔵原
	天舛 晴夫 赤仁田・榎木野・中江 市議会推薦		佐伯 俊二 山田・原の口・鷺の石・茗ヶ原		西村 秀雄 竹原・蔵原・東黒川・坊中



生活習慣病になる前に 年に1度は特定健診！

●死因別死亡割合（平成24年）



健診は発病し
てからではな
く、健康な状態
のうちに受診し
てこそ意味があ
ります。「時間
がない」「元氣
だから大丈夫」
などと考えず自
分の健康のた
め、ぜひ定期的
に受診してくだ
さい。（出典…
政府広報オンラ
イン）

偏った食生活や睡眠不足、運動不足、喫煙、ストレスなどの積み重ねが原因となって発症するがん（悪性新生物）、心疾患（狭心症や心筋梗塞などの心臓病）、脳血管疾患（脳梗塞やクモ膜下出血などの脳の病気）といったさまざまな病気のことを**生活習慣病**と言います。日本人の死因の半数以上を占めています（左グラフ参照）。

特に、がんは30年以上も死因の第1位となっており、国民の2人に1人の割合でがんにかかり、3人に1人ががんで亡くなるなど、日本人の「国民病」とも言われています。

初期における生活習慣病は特に自覚症状がないことも多いため、いつの間にか病気が進行してしまう危険がありますが、普段の生活習慣を改善することによって疾病の予防や早期の発見・治療による健康回復を図ることも可能です。そのための大事なポイントとは、定期的に健診を受けて自分自身の健康状態を常に正しく把握することです。

国保のはなし

阿蘇市の医療費が大幅に増加しています！

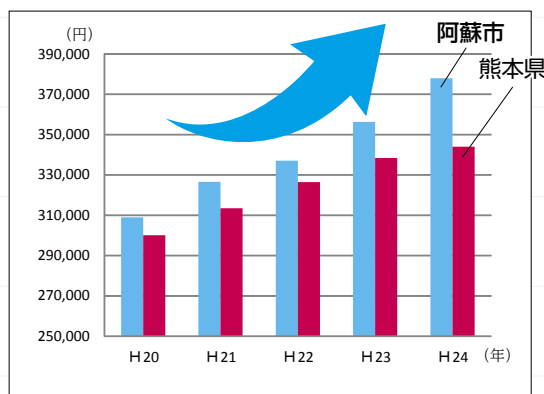
国 保財政は、加入者の皆さまの保険税と市、県及び国の補助金や負担金などで賄われていますが、今その国保財政が危機的な状況にあります。その主な原因は、医療費の大幅な増加です。

右の図は、阿蘇市と熊本県全体の1人当たりの年間医療費を比較したのですが、阿蘇市は常に県平均を上回っているとともに、前年度比105パーセントの高い伸び率を示しています。平成20年度の一人当たり年間医療費が309,006円だったものが平成24年度においては377,975円となっています。

高額な医療費を必要とするものが、「心臓・脳・腎臓」の疾患です。これらの疾患は、先天性的な病気でない限り、**生活習慣病が重症化することにより引き起こされます。**

市では、自分の生活習慣病のリスク保有状況

がわかるために「特定健診」を実施しています。放置するとどうなるのか、どの生活習慣を改善するとリスクを減らせるのかを知り、予防するためにぜひ、年1回「特定健診」を活用してください。



健診内容

健診項目		対象者（今年度到達年齢）	自己負担額	実際にかかる健診料金
30歳代健康診査（医師の診察、問診、身体計測、血液・尿検査、心電図）		国保加入者で30歳～39歳になる人	500円	7,800円
特定健康診査（医師の診察、問診、身体計測、血液・尿検査、心電図）		国保加入者で40歳～74歳になる人	500円	7,800円
後期高齢者健康診査（医師の診察、問診、身体計測、血液・尿検査）		後期高齢者医療加入者	800円	7,560円
肝炎ウイルス検診 ＊これまでに受診した方は対象外です。		40歳以上の男女（41歳・46歳・51歳・56歳・61歳・66歳・71歳になる方は無料）	400円	2,540円
前立腺がん検診（採血）		50歳以上の男性	300円	1,650円
胸部レントゲン検診（肺がん・結核検診）		40歳以上の男女（妊婦を除く）	300円	1,890円
胃がん検診（バリウムを飲んでレントゲン撮影）		40歳以上の男女（妊婦を除く）	700円	4,680円
大腸がん便潜血検査（便潜血2日法）		40歳以上の男女	300円	1,690円
超音波検診（上腹部に超音波をあて検査）		30歳以上の男女	600円	3,500円
子宮頸がん検診		20歳以上の女性（平成26年4月1日現在で20歳の方は無料）	600円	4,100円
乳がん検診	乳房超音波検査	30歳以上の女性	400円	2,580円
	乳房レントゲン検査（マンモグラフィ）	40歳以上の女性（平成26年4月1日現在で40歳の方は無料）	800円	4,860円

※本年度、すでに受診した方は重ねて受ける必要はありません。



の複合健診を受けましょう！

問一の宮保健センター ☎22・5088

市では、健診料金の一部を助成しており、上表のとおり自己負担は数百円と、格段に安く健診を受けることができます。過去2年の間に、秋の健診を受診された方には、健診セット（問診票など）を10月上旬にお送りします。今回初めて健診を希望する方は、一の宮保健センター（☎22・5088）まで、事前にお申込みください。

●健診日程

11月3日（月）一の宮保健センター
 11月4日（火）一の宮体育館
 11月5日（水）阿蘇体育館（第2体育館）
 11月6日（木）阿蘇体育館（第2体育館）
 11月7日（金）一の宮体育館
 11月8日（土）波野保健福祉センター
 11月9日（日）阿蘇保健福祉センター
 11月10日（月）阿蘇体育館（第2体育館）

※11月3日（月）は、託児を行います。前日までに予約をお願いします。（託児予約者の健診受付時間は午前10時から10時30分までです。）

